

平成28年度 アナン学園高等学校 学校評価
(平成27年度の教育活動に対する学校評価)

1 めざす学校像

校訓に基づいた学校経営の実践と地域から信頼される学校づくりをめざす

- 1) 校訓を基に教育をおこなう
 - ① 感謝の気持ちを忘れず
 - ② 相手の立場に立って考えられる
 - ③ 何事にも礼儀を守り
 - ④ 社会に貢献する人間の育成
- 2) 新しい学校づくりに力を注ぐ
 - ① 普通科(学力の向上)の充実をはかる
 - ② 衛生看護科(国家試験合格率の向上)の充実をはかる
 - ③ 専門教員を揃える(衛生看護科・普通科)

2 中期的目標

- 1 確かな(学力向上への)取り組み
 - 1) 進路総合コースの充実
 - ① 2年次からのコース選択「アドヴァンス」「キャリア・進学」
 - ② 進学特別補講の取り組み
 - 2) 教員の指導力向上の取り組み
 - ① 校内・校外研修の取り組み
 - ② 初任者への公開授業の取り組み
 - ③ リーダーの養成
 - 3) 自学自習の習慣化に向けての取り組み
 - ① 平素の授業での指導の徹底
 - ② 授業のみならず課題学習への取り組み
 - ③ 実力テストの実施
 - 4) 進路指導の充実
 - ① 推薦・AOのみならずセンター試験に向けての取り組み
 - ② 就職(大手企業)指導の充実
 - ③ 受験対策及び国家試験対策
- 2 豊かな心を育むための取り組み
 - ① キャリア教育と人権教育の取り組み(進路保障)
 - ② 普通科在籍者への取り組み(受験及び就職対策)
 - ③ 衛生看護科の臨地実習の充実
- 3 学校の組織力向上の取り組み
 - 1) 学校自己診断の実施
 - 2) 保護者との連携
 - 3) 地域連携
 - 4) 広報活動の充実
- 4 教職員の資質向上をめざした体制づくり
 - 1) 授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み
 - 2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み
 - 3) 学科間の連携
 - 4) 教職員間の連携

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

平成27年度 学校評価について

平成24年度より本校では、保護者や生徒からの学校評価や教職員による学校評価を実施しています。

平成27年度のアンケートは平成28年2月に保護者・生徒・教員に対して行いました。

アンケートは各項目に対し、[A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまり当てはまらない D：まったくあてはまらない]の4段階で評価し、A+Bを肯定的評価、C+Dを否定的評価としました。

下記の表は、保護者・生徒・教員のアンケート結果を(60%以上の肯定的、否定的評価)についてまとめたものです。

アンケート結果を謙虚に受け止め早々に取り組めるところは敏速に取り組むたいと考えています。保護者に対して、学校経営に関する情報については、文章配付や学校ホームページを活用し提供することに努めていきます。

最後に、この場をお借りして、アンケートにご協力頂きました方々にお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

【自己評価アンケートの結果と分析及び学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成28年7月]	学校評価委員会からの意見
<p>○ 生徒からの回答 (60%以上の肯定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい。(68%) ・自分の学級は楽しい。(75%) ・この学校には、他の学校にない特色がある。(71%) ・成績などの内容についてプライバシーが守られている。(60%) 	<p>※生徒たちは、学校に来ることが楽しいと思っている。その要因は、自分たちを受け入れてくれる友だちやよき理解者(教員)の存在がある。学校の必要性を感じ、学校や学級に自分の居場所を求めている。目標に向けての努力と社会のルールを体認できる。</p>
<p>(60%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択科目の時間は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる。(71%) ・授業は分かりやすく楽しい。(60%) ・授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。(69%) ・教え方に工夫をしている先生が多い。(62%) ・悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(64%) ・学校生活についての先生の指導は納得できる。(63%) ・学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。(61%) ・ホームルーム活動は活発である。(64%) ・部活動に積極的に取り組んでいる。(70%) ・授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある。(60%) ・環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある。(62%) ・校長先生の話は興味深くわかりやすい。(84%) ・先生は、お互いに協力し合っている。(65%) ・教室・特別教室・運動場には、授業や生活がしやすいように整備されている。(60%) ・学校に施設や設備、学校で使う道具や器具がこわれたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる。(64%) ・他の先生が授業を見学に来ることがある。(81%) ・授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。(77%) ・学校のホームページをよく見る。(83%) 	<p>※学習に取り組む姿勢は、十分に備わっていないことや「わからない」「難しい」など自らの都合のいい言い訳をする生徒がいる。しかし、学習することの大切さを教え継続的に取り組むことから「わかった」「少し理解した」などの声もある。学習能力が低いのではなく、やる気を起こさせるための取り組みが必要である。また、教員の指導力向上のため研修や研究授業、授業見学等の取り組みも必要である。</p> <p>※生徒はより自由な学校を求め、校則等に不満を持っている。校則等の意味や必要性を理解できるような取り組みが必要である。</p> <p>※設備面での不満が多い。生徒に直接かかわる設備の整備が必要である(空調等)。</p> <p>※専攻科で直前の時間割変更についての不満が多くあった。変更がある場合は出来るだけ早く伝える努力が必要だ。</p> <p>※急な校名変更についての不満もあった。</p>

<p>○ 保護者からの回答 (60%以上の肯定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。(70%) ・子どもは、自分の学級が楽しいと知っている。(71%) ・通知表は、子どもの学力や達成度がわかりやすく表すように工夫されている。(62%) ・先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。(61%) ・先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。(60%) ・学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。(61%) ・子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(64%) ・子どもは、学校に友達がいると知っている。(96%) ・学校では子どもに関する個人情報を守られている。(74%) 	<p>※学校の教育活動に対して認知されていない部分が多い。アンケートだけではなく進路説明会等への保護者の出席率の低さからも伺える。保護者との連絡を密にし、学校の教育活動への理解を深めていただく努力が必要である。</p> <p>※保護者は、生徒が好きなことだけに取り組むのではなく、嫌いなことにも取り組む姿勢も身につけさせることが必要である。学校や学級が好きで楽しいという気持ちから色々なことに取り組む姿勢を培って欲しい。友だちと会話すれば楽しい。しかし、勉強を継続的にやることは苦痛を伴うが、それに向かっていく興味をもたせ、我慢強く努力させる耐性を培わせることも大切である。</p>
<p>(60%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。(72%) ・学校は、保護者の願いにこたえている。(69%) ・子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(66%) ・この学校の生徒会活動は活発である。(67%) ・この学校の部活動は活発である。(64%) ・学校は、外国から来日した生徒や保護者に対して十分に支援している。(70%) ・学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。(75%) ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。(68%) ・学校は施設・設備を有効に利用している。(64%) ・学校は、防災や防犯、事故防止に配慮し、施設・設備の点検を行っている。(67%) ・学校は、保護者や地域の人が授業を参観する機会をもうけている。(73%) ・保護者会活動に参加することがある。(83%) ・学校は、生徒が幼稚園・保育園や他の学校と交流する機会を設けている。(82%) ・学校のホームページをよく見る。(81%) 	<p>※学習効果について保護者は、教員の指導力不足にも原因があると考えている。現状は、生徒の学習能力の差が大きく理解度にばらつきが生じている。改善策として、普通科では習熟度によるグループ分けを行い展開している。また、朝学の取り組みで基礎学力の向上をめざしている。</p> <p>※施設・設備面も満足されていない。電子黒板の導入や、看護教材の充実を図っているので、授業に役立てることで今後理解を得られると考える。</p> <p>※保護者への学校での教育活動の報告をきっちり行わなければならない。</p> <p>*衛生看護科は外部との交流も行っているのだが、認知されていない。保護者との連絡の必要性を感じる。</p> <p>※急な校名変更についての不満もあった。</p>

○教員からの回答

(60%以上の肯定的評価)

- ・学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(83%)
- ・各学年の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。(70%)
- ・教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。(65%)
- ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(61%)
- ・教職員は生徒の意見をよく聞いている。(78%)
- ・年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。(78%)
- ・各教科において、教材の精選・工夫を行っている。(87%)
- ・この学校では少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫や改善に努めている。(100%)
- ・この学校では、創意工夫を生かした総合的な学習の時間を実施している。(61%)
- ・生徒の学習意欲に応じて学習指導の方法や内容について工夫している。(61%)
- ・この学校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる。(78%)
- ・生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。(87%)
- ・評価の在り方について話し合う機会がある。(78%)
- ・生徒による問題行動が起こったとき、組織的に対応できる体制が整っている。(78%)
- ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(74%)
- ・この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。(83%)
- ・生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子どもの家庭センター等の関係諸機関との連携ができています。(87%)
- ・生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。(70%)
- ・この学校は、奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している。(74%)
- ・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学校全体で取り組んでいる。(61%)
- ・学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている。(64%)
- ・生徒会活動を通じて、生徒が民主的な手続きを経て、主体的に活動できるよう学校全体で支援している。(74%)
- ・学校として、部活動の活性化について工夫している。(70%)
- ・この学校は情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。(61%)
- ・教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。(74%)

※教員側は、それぞれの生徒の様子等を把握し、教員間で連携して教育活動に取り組んでいると考えている。また、各家庭との連絡も密に取れていると考えている。本校の生徒の中には、小・中学の時に不登校や長期欠席を繰り返してきた生徒が多い。学校と保護者が常に連絡を取り合い、登校指導を継続的に取り組んできた。学校と保護者の考え方には、それほど大きな違いはないと考えている。また、保護者からも一定の理解は、得られていると考える。

※生徒指導や人権教育においても十分な指導がおこなえていると考えている。

<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど感性を高める指導を行っている。(65%) ・障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。(61%) ・体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。(87%) ・日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができています。(61%) ・この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。(61%) ・事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。(61%) ・学校予算は一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている。(65%) ・各教科の備品や教材教具が活用されている。(61%) ・この学校では、図書館が生徒に活用されている。(61%) ・コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。(61%) ・公文書の收受、発送、保管に対する管理がなされている。(96%) ・学校から保護者宛てに公文書を発行するに当たって、校長が決裁するシステムが生かされている。(91%) ・個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。(74%) ・情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。(87%) 	<p>※現状での生徒数は少人数のため、学力に差が大きく、すべての生徒に対応しきれないとの意見も多く出ている。</p>
<p>(60%以上の否定的評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。(65%) ・学校として、読書指導に積極的に取り組んでいる。(70%) ・同和問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。(61%) ・学校として、在籍している外国から来た生徒に対し、教育委員会事業や学校独自の取り組み等で支援する体制がある。(70%) ・環境・国際理解・福祉ボランティアなど現代的教育課題を教育活動に積極的に取り入れている。(61%) ・学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。(61%) ・学校運営に教職員の意見が反映されている(78%) ・この学校では、清掃がいきとどいている。(61%) ・施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。(91%) ・校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。(61%) ・初任者研修等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。(68%) ・学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。(70%) ・研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設 	<p>※施設・設備に対しての不満が多い。経済的な面で無理なこともあるが、現場の教員の意見が反映されることが必要である。</p> <p>※学校運営に教職員の意見も反映される環境作りが必要である。学校側と意思統一した共通理解での計画と、情熱でもって生徒と接し、きめ細やかな指導に専念する努力が必要である。</p> <p>保護者とは情報を密にし、互いに忌憚のない協力的な意見を出し合って学力向上、心の教育、人づくりをめざしたい。</p>

けられている。(65%)

- ・教職員は保護者会活動に参加している。(65%)
- ・近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。(78%)

3 本年度の取組内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組内容の自己評価
--	------	-------------	------	-----------

<p>取 り 組 み ①</p>	<p>確 か な (学 力 向 上 へ の) 取 り 組 み</p>	<p>1) 進路総合コースの充実 ① 2年次からのコース選択</p> <p>②進学特別補講の取組</p> <p>2) 教員の指導力向上の取組 ①校内・校外研修の取組</p> <p>②初任者への公開授業の取組</p> <p>③リーダーの養成</p> <p>3) 自学自習の習慣化に向けての取組 ①平素の授業での指導の徹底 ②授業のみならず課題学習の徹底 ③実力テストの実施</p> <p>4) 進路指導の充実 ①推薦・A0のみならずセンター試験に向けての取組</p> <p>②就職(大手企業)指導の充実</p> <p>③受験対策・国家試験対策</p>	<p>1) ①適切なコース選択ができたか。指導計画は完成したか。</p> <p>②講師の手配は出来たか。計画どおり実施されたか。</p> <p>2) ①研修は実施されたか。</p> <p>②初任者への公開授業は実施されたか。</p> <p>③リーダーの養成は出来たか。</p> <p>3) ①②平素の授業で指導の徹底、課題学習の徹底は出来たか。</p> <p>4) ①センター試験に向けての取組を行ったか。</p> <p>②就職指導は行ったか。</p> <p>③受験対策・国家試験対策は行ったか。</p>	<p>1) ①2学期より予備調査を行い、懇談で保護者への説明、教員間での話し合いを経て、3学期に決定した。コース選択は適切にできたと考える。 指導計画は完成した。</p> <p>②講師の手配はでき、計画通り実施した。参加生徒が少ないので、参加生徒の増加が今後の課題。</p> <p>2) ①校内研修は講師を招いての講演会を6回、衛生看護科ではベテランの教員による指導法の勉強会を開くことができ充実した。校外研修の参加はまだまだ少ないので、研修の周知徹底を行い参加を促すことが必要。</p> <p>②授業見学はそれぞれ行ったが、学校として公開授業は実施できなかった。</p> <p>③それぞれの学科でリーダーは育てているが、全体のリーダー養成が必要。次年度は教職員間での多面評価も導入。</p> <p>3) ①②課題学習は朝学で行ったので習慣づけられている。</p> <p>③実力テストは普通科では2回、衛生看護科では4回行った。専攻科では国家試験の模試を5回行った。</p> <p>4) ①進学特別補講で行っているが、普通科3年生が不在だったため、実際に受験したものはない。</p> <p>②普通科3年生が不在だったため、就職指導は病院説明会など衛生看護科に行った。大手の病院にも就職できたので成果があった。</p> <p>③国家試験対策は専攻科に模試や模試解説授業、過去問解説を</p>
----------------------------------	--	--	--	--

				行った。
--	--	--	--	------

取組み②	豊かな心を育むための取り組み	<p>①キャリア教育と人権教育の取り組み。</p> <p>②普通科在籍者への取り組み</p> <p>③衛生看護科の臨地実習の充実</p>	<p>①キャリア教育と人権教育は行ったか。</p> <p>②受験及び就職対策は行ったか。</p> <p>③臨地実習の拡充と整理は行ったか。</p>	<p>①キャリア教育は職業適性検査2回、進路説明会2回行った。人権教育は2回行ったが、生徒アンケートでは反映されていなかったため、認識させる方法を考えなければならない。</p> <p>②受験対策は進学特別補講で行った。就職対策は3年が不在なので行っていない。</p> <p>③実習病院の受け入れ人数を調整、新規受け入れ病院も増やし拡充に努めた。</p>
取組み③	学校組織力向上の取り組み	<p>1) 学校自己診断の実施</p> <p>2) 3) 保護者との連携・地域との連携</p> <p>4) 広報活動の充実</p>	<p>1) 自己診断を行ったか。</p> <p>2) 3) 保護者・地域との連携をし、互いの理解度はましたか。</p> <p>4) 広報活動は充実していたか。</p>	<p>1) 保護者、生徒及び教員にアンケート実施を行った。アンケート集計と考察はできた。</p> <p>2) 3) アンケート結果にも表れているが、連携をし理解度が増しているとは言い難い。理解度を増すよう努めなければならない。</p> <p>4) ホームページは充実した。教員の塾訪問も行っている。オープンキャンパスも全教職員で取り組んでいる。入試広報室も積極的に説明会参加や広告の拡充で広報活動は充実している。</p>

<p>取組み④</p>	<p>教職員の資質向上を目指した体制づくり</p>	<p>1) 授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み。</p> <p>2) 教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み。</p> <p>3) 4) 学科間の連携、教職員間の連携</p>	<p>1) 授業研究・研修を行ったか。</p> <p>2) 学力向上と進路実現に向けた取り組みはおこなえたか。</p> <p>3) 4) 連携はできたか。</p>	<p>1) 初任者を含めて校内研修を行うことができた。 定期的に講演会を開いた。</p> <p>衛生看護科ではベテラン教員を講師にし指導法の勉強会を開いた。また、講師を招き、模擬授業等で指導法の勉強会を開いた。</p> <p>。今後、授業研究が少ないので、積極的に取り入れなければならない。</p> <p>2) 生徒への取り組みは行えたが、教員に対してはあまりおこなえていない。教員への進路説明会等を行わなければならない。</p> <p>3) 4) 学科ごとの特性を生かしつつ、共通の行事をとおして生徒や教師が交流することによりお互い理解している。 教職員間は多面評価を取り入れ、自他ともに理解し連携できるように努める。</p>
-------------	---------------------------	--	---	--